【むかわ町】
端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	435	413	414	401	398
② 予備機を含む整備上限台数	500	475	476	461	458
③ 整備台数 (予備機除く)	0	413	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	413	0	0	0
⑤ 累積更新率	0%	100%	100%	103%	104%
⑥ 予備機整備台数	0	61	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	61	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0	15%	0	0	0

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新の考え方)

令和2年度に児童生徒用端末を528台整備している。その後、令和6年3月に6台、7月に2台を新たに購入している。

GIGAスクール構想第2期における端末整備・更新では、令和7年度の児童生徒数に予備機15%を加えた474台を令和7年度に更新する予定である。端末更新、使用開始は令和8年度4月を予定している。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数: 536台

○処分方法

- ・使用済端末を指導者用端末として転用: 86台(令和2年度78台、令和6年度購入端末8台)
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者に再使用・再資源化を委託 : 450台(令和2年度購入端末)

○端末のデータの消去方法

- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール(予定)

- ・令和8年4月 児童生徒用端末更新、使用開始
指導者用端末に転用
- ・令和8年5月 使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項 なし

【むかわ町】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)
 - ・総学校数 : 4校(小学校2校、中学校2校)
 - ・必要なネットワーク速度が確保できている学校 : 0校(小学校0校、中学校0校)
 - ・総学校数に占める割合 : 0%

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール
 - (1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール
 - ・令和6年度にネットワークアセスメントを実施済み。

- (2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

- ・ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、令和7年度から順次改善を進め、令和9年度末までに完了させる予定。

- (3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

- ・回線やプロバイダ契約の内容の見直しを検討する。【4校】(令和7～8年度)
- ・旧規格で通信しているアクセスポイントを更新する。【3校】(令和7～8年度)
- ・ルーターを更新する。【1校】(令和7年度)

※上記3点を改善後、令和9年度までに再度NWアセスメントを行う。課題を明らかにし、改善を進める。

■ 備考

ネットワークの知識を有する業者と保守契約を結んでおり、ネットワークトラブル時の問合せ、オンサイト対応が可能である。

【むかわ町】
校務DX計画

GIGAスクール構想にて整備された汎用クラウドツールを活用し教職員が情報共有をすることで、クラウドツールの便利さを実感し校務の効率化が進んでいる。
さらなるコミュニケーションの迅速化や活性化、校務の負担軽減を図るため、以下の校務DX計画を推進する予定である。

○「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題を解決する

○ クラウドツールの利活用

教員と保護者間、教員と児童生徒間、学校内の連絡のデジタル化を徹底し、効率化する。(令和8年度までに100%)

【具体例】

◆教員と保護者間

- ・ 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡
⇒ 児童生徒からはアクセスできない環境でメール配信システム等を活用する
- ・ 業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項
⇒ 汎用クラウドツール等を活用する

◆教員と児童生徒間

- ・ 児童生徒への各種連絡
⇒ 汎用クラウドツールを活用し、
時間割、テスト範囲等の共有をデジタル化する
- ・ 宿題(学期中、長期休暇中)の実施・採点
⇒ 汎用クラウドツールやデジタルドリル教材等を利用しデジタル化する

◆学校内の連絡

- ・ 職員会議
⇒ クラウド上で資料を配布・保存する
⇒ 汎用クラウドツール等で検討事項を事前に情報共有し、
あらかじめ意見を求める
- ・ 職員間の情報共有
⇒ 汎用クラウドツール等を用いる

○ FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXでのやり取り・押印の慣行を見直し、FAXの使用・押印を原則廃止する。(令和8年度までに100%)

【具体例】

◆複合機のFAX機能を活用

- ・ 複合機で紙をスキャンし、そのデータをメールで送信する
- ・ 複合機のメールアカウントで受信したファイルを印刷する

○ 不合理な手入力作業の一掃

現在、校務業務では多くの手入力作業が存在する。不合理な手入力作業を洗い出し、改善策を通じて教職員の負担軽減を図る。特に、校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力の一掃に取り組む。(令和8年度までに100%)

○ 校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討を実施

校務システムの更改のタイミングにおいてスムーズに次世代の校務システムへと移行できるよう、校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討を実施する。(令和8年度までに100%)

検討の際、令和5年度より開始している「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況に留意する。

○ アクセス制御を前提としたネットワークにおける情報セキュリティの確保

文部科学省から令和5年3月に提示されている「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言にある「次世代の校務DXの方向性」を参考に、いわゆるゼロトラストの考え方に基づき、アクセス制御を前提としたネットワークに移行し、ネットワーク統合により校務系・学習系システムの接続性を確保するとともに、教職員が使用する端末の一元化やテレワーク環境の整備、業務のペーパーレス化等を推進していく。

【むかわ町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(令和3年1月)では、「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」としている。GIGAスクール構想にて整備された1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて、児童生徒が急激に変化し予測困難な時代に持続可能社会の創り手となることができるよう、その資質と能力を育成する学びを目指す。

2. GIGA 第1期の総括

令和元年に国が示したGIGAスクール構想を受け、令和2年度に1人1台端末及びクラウド環境、高速大容量の通信ネットワーク等のデジタル学習基盤が整備された。

また、教員のICT活用指導力の向上を図るため、むかわ町教育推進委員会を中心とし、教職員研修会や公開研究会、道外視察研修など、研修体制の整備・充実を図った。令和6年度より日本教育工学協会が行う学校情報化認定の取組を活用し、町内小・中学校4校の情報化の推進体制の整備を進めているところである。

GIGAスクール構想の実現に向けたこれらの整備や取組を通して、教職員や児童生徒にとって1人1台端末はいつでも・どこでも・自由に使える文房具のような存在となり、端末を使った調べ事、作品作り、グループ学習や情報共有が日常となった。児童生徒の特性に合った活動により、表現方法の幅も広がり授業も活発になっている。

しかし以下のような課題がある。

- ①教職員間、学校間での端末利活用状況の格差
- ②ネットワーク環境の改善や児童生徒用端末のスペック不足

上記の解決策として、以下が挙げられる。

- ①町教育推進委員会 (ICT教育推進部会) を通した、各校の実践交流や研修体制の更なる充実
- ②NWアセスメントに基づくネットワーク環境の改善、及び児童生徒用端末の計画的な更新

3. 1人1台端末の利活用方策

上記「1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」「2. GIGA 第1期の総括」を踏まえ、「教育DXに係る当面のKPI」における「1人1台端末の積極的活用に向けた目標」「個別最適・協働的な学びの充実にに向けた目標」及び「学びの保障に向けた目標」を念頭に置き、以下の方策を講じる。

端末の利活用の前提として、GIGA第2期の端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。

項目	学びの姿の実現に向けた目標	方策
1人1台端末の積極的活用	・ICT研修の推進体制の整備(教員研修の充実) ・1人1台端末を週3回以上活用する	◆教育推進委員会を中心としたICT研修の推進・充実 ・各校の実践交流、公開研究会、道外視察研修等 ・毎年度ICT研修を受講する教員の割合: 100% ◆デジタル学習基盤の整備 ・NWアセスメントに基づくネットワーク環境の改善 ・ICT支援員の配置・活用(4校/人)
個別最適・協働的な学びの充実	・児童生徒が考えをまとめ、発表・表現する場面 ・児童生徒同士がやりとりする場面 ・自分の特性や理解度・進度に併せて課題に取り組む場面 において1人1台端末を週3回以上使用させる	◆デジタルドリル、学習支援ツールの整備 ・「1人1台端末を週3回以上活用する学校の割合: 100%」を達成する取組の一つ、及び個別最適な学びの実現、学力向上のため。 ◆授業支援ツールの整備 ・大型提示装置への投影、画面共有等を行うことにより、1人1台端末を活用した協働的な学びを実現するため。 ・左記の場面において、1人1台端末を週3回以上使用させている学校の割合: 100% ・デジタル教科書を実践的に活用している学校の割合: 100%
全ての児童生徒の学びの保障	・不登校等希望する児童生徒への端末を活用した授業の提供や教育相談を実施している ・特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を行っている学校の率の増加	◆オンライン授業に必要な機器の整備 ・不登校児童生徒、外国人児童生徒、障害のある児童生徒等が授業への参加・視聴の機会を提供するため。 ・希望する不登校児童生徒等へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率: 100% ◆健康観察・教育相談システムの活用 ・児童生徒の心身の状況把握や教育相談を行い、適切な支援につなげるため。 ・希望する児童生徒への1人1台端末を活用した教育相談を実施している学校の割合: 100%

方策の検討に当たっては、GIGA第1期の課題について学校現場にヒアリングを行う。文部科学省リーディングDXスクールによる先進的取り組みや近隣市町の取り組みや課題を参考とする。また、胆振教育局の指導主事や町教育関係諸団体と連携を図りながら取組の改善・充実を図る。